

議 事 録

会議等名称	平成26年度 第2回 伊那市子ども・子育て審議会
日 時	平成26年9月9日(火) 午後6:30～7:40
場 所	市役所 庁議室
欠 席 者	伊藤百合子委員 滝芳樹委員 宮下幸子委員
議 題	(1) 伊那市子ども・子育て支援事業計画(素案)について (2) その他
議 事 内 容	
<p>3 審議</p> <p>(1) 伊那市子ども・子育て支援事業計画(素案)について</p> <p><事務局> 事業計画(素案)及び資料により説明をする。</p> <p><委員長> まずは基本となる量の見込みについて確認をしたい。 量の見込みに関し委員の質問、意見を伺いたい。</p> <p><委 員> 1号と2号の認定について、分ける根拠は何か。</p> <p><事務局> 保育の必要性の有無と、年齢により1～3号認定になる。 三歳以上児で、保育が必要な場合は2号認定。保育が不要の場合は1号認定。 3歳未満児で、保育が必要な場合は3号認定となる。</p> <p><委 員> 長野県の幼稚園への就園率は全国で一番低い。南信は県下で低い。日本一幼稚園が少ない地域だ。県では認定こども園を推進している。そのような状況の中で、1～3号になぜ分けるのか理解できない。</p> <p><委 員> 1～3号の認定は、施設の意向を考慮しているのか。</p> <p><事務局> 意向は考慮していない。</p> <p style="text-align: center;">— 質問・意見なし —</p> <p><委員長> 量の見込みについては、素案の数値とすることに了解いただけるか。</p> <p><各委員> 了解。</p> <p><委員長> 素案について、1章・2章に対し委員の質問、意見を伺いたい。</p> <p><委 員> 市として、保育園へ入園するまで家庭での育児はどうあるべきと考えるか。また、保育園で、保育のカリキュラムや、指導はあるか。</p> <p><事務局> 伊那市では「生きる力のある子ども」を基にランドデザインを作っている。それを基に各園にランドデザインがあり実践している。地域の特色も活かしている。</p> <p><委員長> 幼稚園ではどうか。</p> <p><委 員> 幼稚園は学校教育の位置づけとなっている。4時間の単元があり、午前と午後の活動がある。早朝と夕方の預かりを、子育て支援の意味で実施している。</p> <p><委 員> 育児のポイントを掲げるべきだ。生きる力とはどんな要素があるのか。親として家庭でどのような子育てをするのか。園においてはどのような保育をするのか。基本姿勢を示すべきだ。基礎がありその上への積み上げが大切となる。</p>	

<事務局> 次回示したい。

<委員> 子どものことを第一に考えてほしい。

<委員長> P 2、中段の「さて」について、「さて」の前段と後段は、関連性がある文章となっている。しかし「さて」を使うことにより前段と後段の関連がなくなってしまうのではないか。別の言葉にすべき。

P 1 2、「ある」を「ます」に。

<委員> P 1 2、「イ 母親の就労状況」の本文中「フルタイムは 30.6%」とあるが、グラフの該当数値を加えても数値が異なる。

<事務局> 31.0%の誤りである。

— 質問・意見なし —

<委員長> 素案について、3章・4章に対し委員の質問、意見を伺いたい。

<委員> 統廃合の計画はこの計画に入れるのか。また、事業所内保育は支援の対象となるのか。

<事務局> この計画に統廃合は入らない。

事業所内保育は、地域型保育事業に含まれ、要件を満たせば公的支援を受けることができる。

<委員> 公立保育園を念頭にした表記だ。私立保育園や幼稚園もある。全体を入れてほしい。

<事務局> 変更し、次回示したい。

<委員> 長い時間学童クラブで過ごす子どもがいる。子どもたちの成長につながるよう、学校教育課とも連携し学童クラブでのカリキュラムを考えてほしい。

<事務局> 検討したい。

<委員長> P 2 1、「子どもを守る活動」とあるが、「子どもを守り育てる活動」とすべき。地域の力で育ってほしい。

<委員> P 3 1、利用者支援事業は、具体的にどのような事業なのか。

<事務局> 新規事業である。様々なサービスから保護者が必要なサービスを選択できるよう、相談できる担当職員を配置していきたい。

<委員> 良い事業である。相談しやすい窓口としてほしい。どのような立場の職員を配置するのか。

<事務局> 現場の経験者を考えている。

— 質問・意見なし —

<委員長> 素案については、了解いただけるか。

<各委員> 了解。

(2) その他

<事務局> なし。

<委員長> 委員から何かあるか。

<各委員> なし。